

paterno®
WE TAME FIRE

C7 / GAIA NEXT
C5 / GLORIA NEXT
C5B / GLORIA B NEXT

取扱説明書



目次

■ストーブについて

1. はじめに	3
2.安全にお使いいただくために	3
2.1 マークについて	3
2.2 主な禁止事項	4
2.3 主な注意事項	4
3.使用方法	5
3.1 ペレット	5
3.2 事前のチェック	6
3.3 ペレットタンク	7
3.4 点火	8
3.5 操作	9
3.6 操作上の警告	9
3.7 消火	9
4.清掃とメンテナンス	10
4.1 ユーザーによる清掃とメンテナンス	10
4.2 有資格者によるシーズンオフメンテナンス	11
5.資料	12
5.1 寸法図	12
5.2 配線図	13
5.3 仕様表	14
■ディスプレイとコントロールパネル	15
6.コントロールパネル	15
6.1 ディスプレイ表示	15
6.2 ボタン操作	15
6.3 マーク点灯	16

7.コントロールパネルの操作	16
7.1 点火	16
7.2 火力設定	16
7.3 室温設定	16
7.4 消火	16
7.5 表示メッセージ	17
7.6 キャリブレーション	17
7.6.1 ペレット供給量の調整	17
7.6.2 排気ファンスピード(燃焼空気量)の調整	18
8.メニュー設定	18
8.1 Air:温風ファン	19
8.2 Cron:タイマー	19
8.2.1 ModE:プログラムの有効/無効	19
8.2.2 ProG:タイマープログラムの設定	19
8.3 Rice:レシピ	19
8.4 Orol:時計	20
8.5 tELE:リモコン	20
8.6 Stby:スタンバイモード	20
8.7 AuPo:オートモード	20
8.8 LoAd:ペレットの手動装填	20
8.9 SoFt:ソフトモード	20
8.10 Tpar:シークレットメニュー	21
9.アラーム表示	21

■ストーブについて

1.はじめに

当社のストーブをお選びいただき誠にありがとうございます。
ご使用を開始される前に、本書をよくお読みください。
これによりストーブを安全に、最高のパフォーマンスでお使いいただけます。

このマニュアルには、ストーブの使用とメンテナンスに必要な情報が記載されています。
ストーブを安全かつ効率的に使用するために、マニュアルの指示に従ってください。
このマニュアルとすべての資料は、必要な時にすぐに参照できるように手の届くところに保管してください。
本製品の使用は、地域・国・および欧州規格を満たしている必要があります。

このマニュアルの規定に従わなかった場合、またはストーブの安全装置の改ざん、取り付け・調整・メンテナンスの誤り、または低品質のペレットの使用により人や動物に損害が生じた場合でも、製造業者は責任を負いません。

2.安全にお使いいただくために

2.1 マークについて

本書において、次のマークの記されている箇所はその指示に従ってください。



記載されている操作や使用を禁止します。



記載されている指示に注意深く従ってください。

これらのマークの指示に従わない場合、怪我のリスクと、財産やストーブ自体に損害を与える可能性があります。

ストーブは、ユーザーとメンテナンス担当者に対するリスクを最小限に抑えるように設計されています。

設計時に全てのリスクは排除できないため、以下の指示に必ず従ってください。

設置、電気接続、起動、メンテナンスは、資格のある認可された担当者が、規制・規格に完全に

準拠して行います。

ストーブが接続される電気システムは正しくアース線を装備してください。

2.2 主な禁止事項



- ・子供や障害のある方がストーブを単独で使用することは禁止されています。
- ・体の湿った部分や濡れた部分、または素足でストーブに触れることは禁止されています。

- ・メーカーの許可なく安全装置や規制装置を改ざんすること、その他の改造を行うことは禁止されています。
- ・ストーブの電源を切らずに清掃やメンテナンス作業を行うことは禁止されています。
- ・ストーブを焼却炉として使用することや、本来の用途以外の目的で使用することは禁止されています。
- ・ストーブの上で雑巾や衣類などを乾燥させることは禁止されています。
- ・火災の危険を避けるため、物干し竿はストーブから 1.5 メートル以上離して設置してください。
- ・ストーブが燃焼しているとき、または点火/消火中にドアを開けることは禁止されています。
- ・ガラスが割れた場合は、修理が完了するまでストーブを使用しないでください。
- ・ストーブの作動中にガラスや高温部分を清掃することは禁止されています。
- ・ストーブの一部(ハンドル、ドア、ガラス、排気管など)は高温になり、やけどの原因となりますので、使用中やストーブが完全に冷めていないときは触れないでください。
- ・必要に応じて、保護手袋などを使用してください。
- ・ストーブの点火等に他の種類の燃料を使用することは禁止されています。
- ・ストーブの近くに可燃物(パレットの入った袋、可燃性液体など)を置くことは禁止されています。

2.3 主な注意事項



- ・ストーブは、8 歳以上の子供、身体的・感覚的・または精神的能力が低下している方や、経験や必要な知識が不足している方でも、監督者の指導のもと、または安全な使用方法についての説明を受け、操作に伴うリスクを理解している限りご使用いただけます。

- ・子供をストーブで遊ばせないでください。
- ・子供が監督者のいない状態で、ストーブの掃除やメンテナンスを行うことは避けてください。
- ・本製品は厳しい気候条件でも動作するように設計されていますが、特に悪条件(強風、霜)が発生した場合には、ストーブの安全装置が作動しストーブが停止する可能性があります。
- ・このような問題が発生した場合は、販売代理店またはメーカーに連絡し、いかなる場合も安全装置を無効にしないでください。

3.使用方法



お子様によるストーブの使用は禁止されています。

点火中はストーブの外部部品、特にガラス・ドア・排気管は非常に高温になります。

偶然触れることによるやけどや、火災の危険を防ぐため、十分な注意と適切な安全対策を行ってください。



排気管に火が点いてしまった場合

・可能であればストーブを消火してください。

・すぐに消防署に連絡してください。

ストーブは地域・国・欧州の規格に従って設置および使用する必要があります。

ペレットストーブは、「ペレット」と呼ばれる圧縮された天然木のおがくずを円筒にしたものを燃料として燃焼するよう設計されています。

3.1 ペレット

さまざまな種類のペレットが市販されていますが、高品質のペレットを使用することをお勧めします。

高品質のペレットの主な特徴

直径: 6.0～6.5mm。

直径: 5～30mm

水分含有量: 10%未満

灰分含有量: 1%未満

密度: 650kg/m³

発熱量: 4.9kWh/kg、約 18000kJ/kg

原材料: 化学物質や廃材を一切使用しない天然木材のみ。

結合剤は天然由来のものであり、最小限の量である必要があります。

高品質なペレットのみを使用することで、CO₂ 排出量を抑え、環境への負荷を低減できます。

また、燃焼効率が高まり、ストーブ内部の汚れの蓄積を抑えることができます。

したがって、上記の特性に対応するペレット、または認証マークが付いているペレットを使用することをお勧めします。

なお、製造会社が独自に供給するペレットや、認定を受けていないペレットを使用した場合は、保証の対象外となります。

ペレットの品質が不十分によりストーブの性能が低下した場合、当社は一切の責任を負いかねます。

ペレットは湿気の少ない乾燥した場所で保管してください。



ストーブを焼却炉として使用することや、本来の用途以外の目的で使用することは禁止されています。

ストーブの点火等に他の種類の燃料を使用することは禁止されています。

引火性の液体や火薬などでストーブを点火しようとししないでください。

ストーブの近くに可燃物(ペレットの入った袋、可燃性液体など)を置くことは禁止されています。

3.2 事前のチェック

ストーブを初めて点火する前、または長期間使用していなかった場合は、必ず点火前に事前チェックを行ってください。

ストーブを使用しない期間は、電源コードを抜いて保管することをお勧めします。

点火前には、必ず本説明書の内容をよくご確認ください。

a) 設置場所の確認

- ・ストーブが壁面等から安全な距離をとって設置されていることを確認してください。
- ・ストーブの周囲(最低距離 80cm)に、カーペット、カーテン、その他可燃性の家具等がないことを確認してください。

b) 排気管の確認

- ・接合部が密閉され、完全に接合されていることを確認してください。
- ・排気管のすべてのセクションが、点検可能かつ取り外し可能であることを確認してください。
- ・排気ガスはほとんど見えませんが、非常に高温で火傷の原因となる場合があります。
- ・排気管は高温(>250℃)になることがあります。

長期間使用しなかった場合は、パイプ(曲がり、T字管)、ダクト、煙道のすべてのセクションを事前に検査し、必要に応じて清掃してください。



排気管の端部を保護ネットなどで塞ぐことは、ストーブの動作に重大な不具合を引き起こす可能性があるため、絶対に行わないでください。

ダクトや煙道を他の燃焼機器と共用することはできません。

c) 給気口の確認



- ・給気口は絶対に塞がないでください。

d) 燃焼室内の確認

- ・燃焼室内に可燃物(書類、ケーブルなど)がないことを確認してください。
- ・燃焼ポットとディフレクターリングの位置を確認してください。
 - ・燃焼ポットの片側に開けられた円形の穴が、点火ヒーターのホルダーパイプと一致するように配置してください。
 - ・燃焼ポットは、燃焼室内のサポート上に完全に設置されていることを確認してください。

e) 電気系統の確認

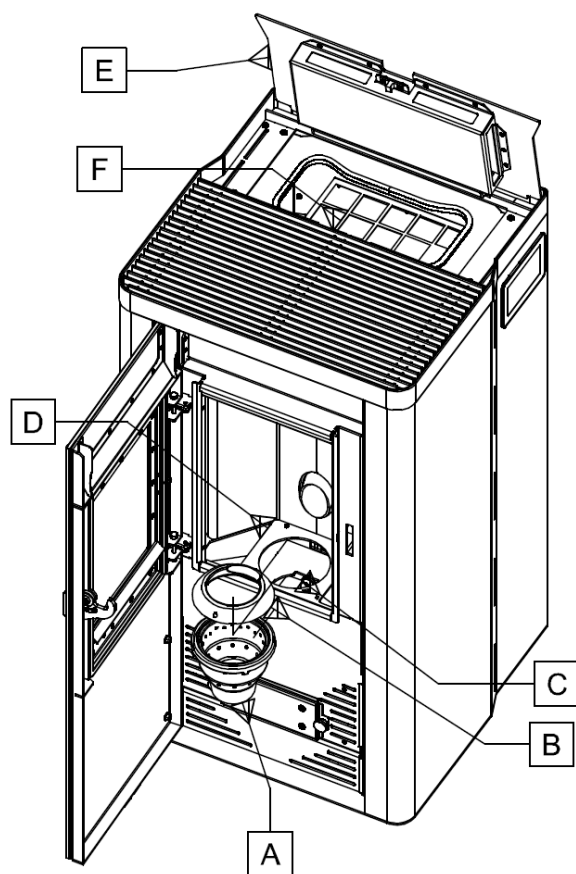


ストーブが接続される電気系統の容量が適切であること、アース線が装備されていることを確認してください。

3.3 ペレットタンク

ペレットタンクはストーブの上部にあります。

タンクカバーを開けてペレットを補充してください(下図 E)。



A 燃焼ポット B ディフレクターリング C 点火ヒーター
D 燃焼ポットサポート E タンクカバー F ペレットタンク

- ・タンク内のガasketを越えてペレットを入れないでください。
カバーが正しく閉まらず、ストーブが使用できなくなります。
- ・自動で送り出されなかったペレットがタンク内に残っている場合がありますが正常です。
- ・長期間ストーブを使用しない場合は、タンク内のペレットを取り除くことをお勧めします。
ペレットは湿気を吸収すると燃焼に適さなくなる可能性があります。
- ・タンク内のペレットを取り除く際は、タンク内の格子を取り外さず、掃除機を使用することをお勧めします。
- ・ペレット以外の物をタンク内に入れないよう十分注意してください。
他のものが入ると、ペレット供給システム（オーガー）に修復不可能な損傷が生じることがあります。
- ・上記のすべての作業は、必ずストーブの電源コードを抜いた状態で行ってください。
- ・ストーブに火が点いた状態でペレットを補充する場合は、ペレットの袋が高温部分に触れないように注意してください。
- ・上記のすべての作業は、保護手袋を着用した状態で行ってください。



タンクの清掃後は、ストーブを点火する前に手動でペレットを装填する必要があります。→**8.8 LoAd:ペレットの手動装填**

この操作は、初めての点火前や燃料切れエラー(ER03)が発生した際にも必要です。



手動でペレットを装填した後は、燃焼ポットを空にし、正しい位置にあることを確認してください。

3.4 点火

ストーブの初めての点火は、資格のある担当者が行ってください。

最初の点火時には、塗料の臭いが数時間発生することがあります。

- ・室内の換気を十分に行ってください。
- ・臭いは不快に感じるがありますが、有害ではありません。

タンクにペレットを満たした後、付属のケーブルを使用してストーブを電源ソケットに接続します。

- ・ストーブへの接続ポイントはストーブの後部にあります。
- ・電気ケーブルがストーブの高温面や排気管に触れないようにしてください。

メインスイッチを押して主電源を入れます。

点火を開始するには、P1 (Ⓢ) を電子音が鳴るまで長押しします。

- ・画面表示の詳細については、**6.コントロールパネル**の項を参照してください。

点火サイクルは約 10 分間続きます。

- ・この時間内にストーブが点火しない場合、ディスプレイに注意が表示されます。
 - ・排気ガスを排出するため約 15 分間排気ファンが動作します。
- エラー(ブロック)状態を解除するには、P1(Ⓢ)を電子音が鳴るまで長押しします。
- ・この時点で、システムはオフ状態になります。
- 再度点火する場合は 5 分間待ってから燃焼ポットを空にし、元の位置に戻して点火操作を繰り返します。
- 3 回目の点火試行が失敗した場合は、正規販売店に連絡してください。

3.5 操作

点火後、ストーブは通常運転に入ります。

ストーブの火力はディスプレイに表示され、火力設定で変更することができます。

- ・この設定は点火動作中でも行うことができます。

火力の調整は、ペレット供給量と排気ファンの調整を同時に行うことを意味します。

- ・短時間に火力を過度に変化させることは故障の原因となる可能性があるため避けてください。



ストーブを連続してオン/オフしないでください。
修復不可能な損傷や故障の原因となることがあります。



可燃性の液体や材料を使用してストーブを点火しないでください。
ペレットを手で燃焼ポットに入れないでください。

3.6 操作上の警告

点火や消火の際に、ストーブからきしみ音が聞こえる場合があります。これはストーブ本体の金属部分の膨張によるもので、異常ではありません。



燃料不足によるストーブの停止を防ぐため、運転中は定期的にタンク内のペレット量を確認してください。
ストーブの高温部分には手を触れないよう注意してください。

3.7 消火

ストーブを消火するには、P1(Ⓢ)を長押しします。

消火サイクルは排気温度が 50℃以下になるまで続きます。消火サイクル中は、ペレット装填モーター(オーガーモーター)は停止し、排気ファンと室内温風ファンが作動します。



主電源を切ったり、コンセントを抜いたりしてストーブを消火することは禁止されています。

排気ガスを完全に排出し、ストーブで発生した熱を完全に利用するため、消火サイクルは電源を切らずに自動で完了させる必要があります。

タイマーや温度設定機能を使ってストーブを消火することもできます。→8.2 Cron:タイマー

4. 清掃とメンテナンス

4.1 ユーザーによる清掃とメンテナンス



すべての清掃およびメンテナンス作業は、ストーブが完全に冷えた状態で、電源ケーブルを抜いた状態で行う必要があります。



高品質の認証ペレットを使用することでストーブは正しく、効率よく機能します。また、清掃やメンテナンスの負担も軽減されます。

・燃焼ポットは毎日点火する前に清掃し、ポットの底の穴が灰などでふさがっていないことを確認してください。

・ふさがっている場合は、取り外してワイヤーブラシなどで清掃してください。

・燃焼ポットの周囲も専用の掃除機などを使用して清掃してください。



4.1 A



4.1 B



4.1 C



4.1 D

- ・清掃後は、燃焼ポットとディフレクターリングを正しく組み立ててください(図 4.1 A,B)。
- ・燃焼室内は毎週点検して掃除してください(図 4.1 C)。



掃除機を使用する場合は、灰が完全に冷めていることを確認してください。

- ・ガラス窓は、必要に応じてキッチンペーパーまたは綿布で清掃してください。
 - ・洗剤を使用する場合は専用の物を使用し、壁面等に付着しないようご注意ください。
- ・月に一度、燃焼室の下にある点検口を点検・清掃してください(図 4.1 D)。
- ・月に一度、ペレットタンクが空の時に掃除機をかけ、底に溜まったおがくずを取り除いてください。
- ・ストーブの外部を掃除する際は、刺激の強い製品や研磨剤入りの製品を使用しないでください。
- ・ストーブの掃除は、完全に冷えた状態で、電源コードを抜いてから行ってください。
- ・ストーブを水やその他の液体で洗わないでください。
 - ・内部の電気絶縁が損傷し、使用者に危険が及ぶ可能性があります。



ストーブ内部のメンテナンスは資格のある担当者のみが行う必要があります。

4.2 有資格者によるシーズンオフメンテナンス



安全かつ快適にストーブを使用するため、定期的(1年毎)にシーズンオフメンテナンスを実施してください。

- ・排気経路とストーブ内部の清掃、熱交換部やガスケットの点検などが必要です。



シーズンオフメンテナンスは購入した販売代理店へお問い合わせください。

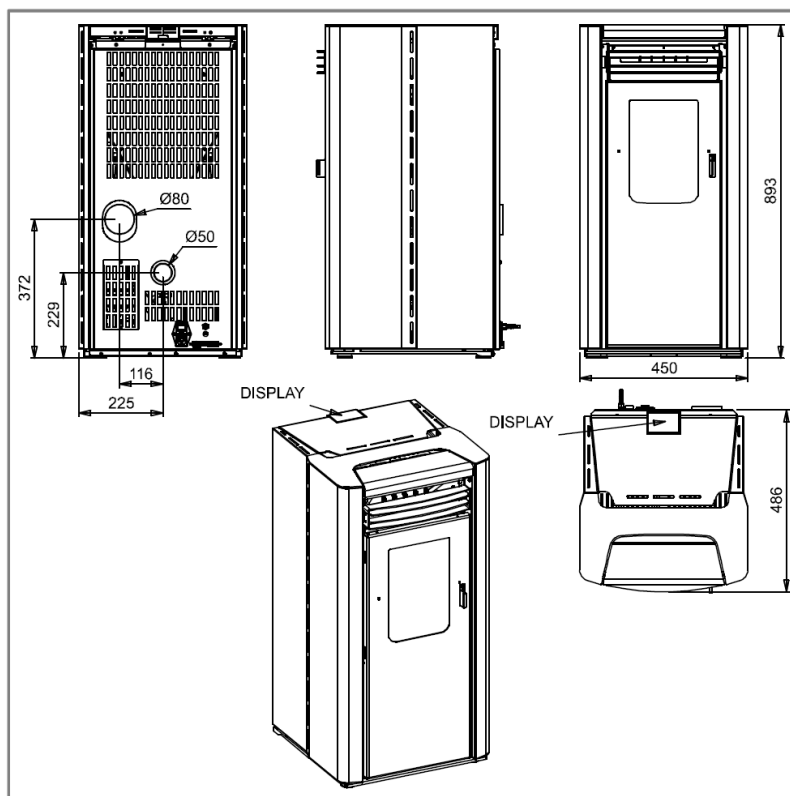


部品交換が必要な場合は、メーカーが指定した純正スペアパーツのみを使用してください。

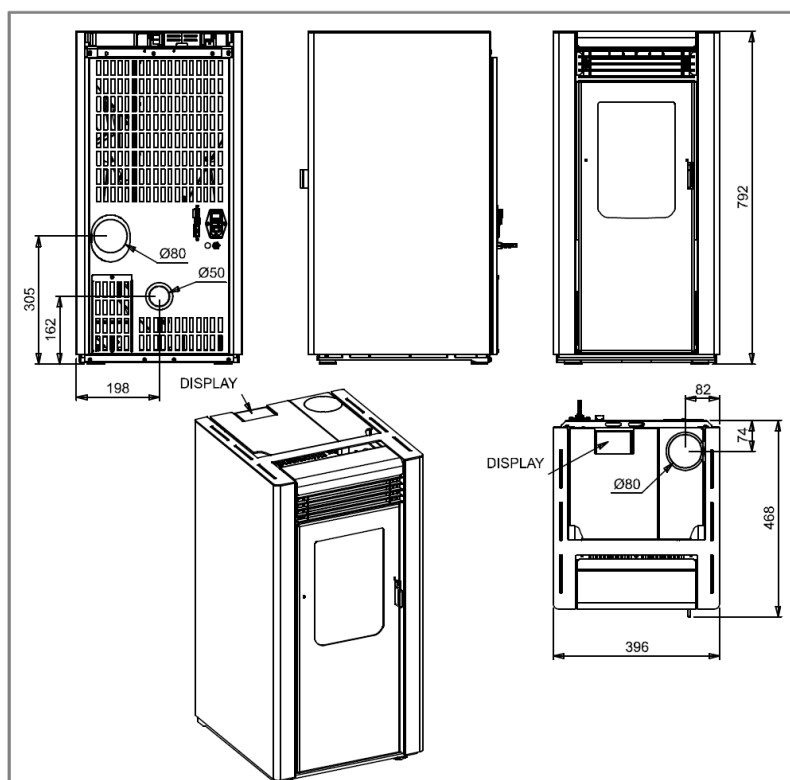
5.資料

5.1 寸法図

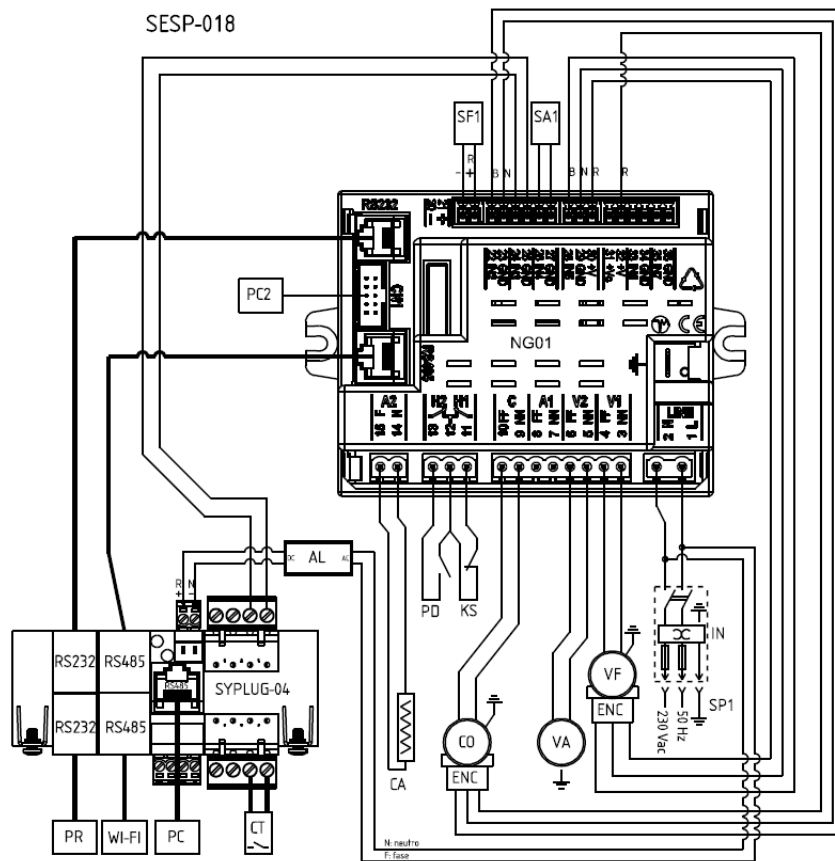
C7 / GAIA NEXT



C5B / GLORIA B NEXT



5.2 配線図



SP1 - Recessed plug

IN - Recessed switch with fuse strip
(glass mini-fuse 5x20 mm, 3.15 A, 250V.) – mains filter

VF - Fume extraction fan

ENC - Speed sensor (Encoder)

VA - Heating fan

C2 - Remote fan 2 μ f / 425V

CA - Starting heating element

CO - Auger motor

KS - Pellet hopper thermal cutout

PD - Differential pressure-switch

PC - Control panel (Touch screen/LCD)

PC2 - Control panel (Serie CP)

SF1 - Flue gas probe

SA1 - Room probe Local

CT - Cronotermostato (Optional)

MSP - Pellet hopper cover micro switch
(If present)

AN - Antenna

F1 - 5x20 mm 5A fuses

PR - Programming

WI-FI - Module Wifi (Optional)

USB - USB pendrive

R - Red - **N**: Black - **B**: White

5.3 仕様表

認証機関:Kiwa

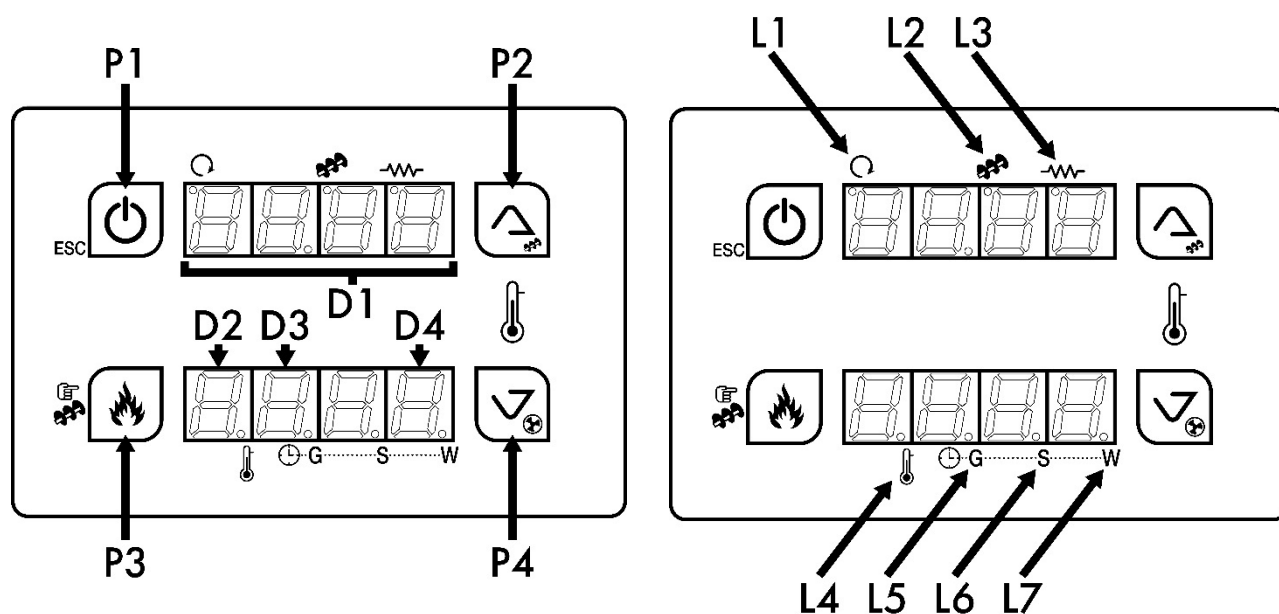
仕様	単位	C5	C5B	C7
高さ	mm	792	792	893
幅	mm	420	396	450
奥行	mm	458	468	486
排気管径	mm	80		
給気管径	mm	50		
暖房出力<定格時/最小時>	kW	5.0/2.1		7.0/2.1
燃焼効率<定格時/最小時>	%	96.4/96.5		94.7/96.5
暖房容積**	m ³	135/67.5		175.5/67.5
平均排気温度<定格時/最小時>	℃	79.5/55.8		103.1/55.8
平均 CO2 濃度<定格時/最小時>	%Vol	12.86/7.16		12.51/7.16
排気ガス流量<定格時/最小時>	g/s	2.7/2.1		3.9/2.1
CO 濃度(13%酸素換算値) 〈定格時/最小時〉	%Vol	0.0125/ 0.0182		0.0055/ 0.0182
ばいじん・炭化水素・窒素酸化物 濃度(13%酸素換算値)〈定格時〉	mg/m ³	100		129
ペレット消費量*〈定格時/最小時〉	kg/h	1.03/0.44		1.45/0.44
電源	V/Hz	230/50		
使用電力<点火時/通常運転時>	W	380/100		380/105
タンク容量*	kg	12	9	15
ドラフト<定格時/最小時>	Pa	2.8/2.3		
灰受け容量	d m ³	2		
可燃物からの最小離隔距離 〈後/横/前〉	cm	20/20/80		
最小設置距離〈後/横/前〉	cm	20/20/80		10/40/80
構造材	-	スチール、鋳鉄		
外装	-	スチール		

*使用するペレットによって異なります

**1 m³あたりに必要な熱量に基づいて計算しています(40,35,30kcal/h・m³)

ディスプレイとコントロールパネル

6.コントロールパネル



6.1 ディスプレイ表示

ディスプレイ	点灯	点滅
D1	時間 / ステータス / エラー / メニュー表示	時間/ Mod/Stby 調整モード・待機モード
D2	設定火力	変更中の数値
D3		
D4	室内温度	変更中の数値

6.2 ボタン操作

ボタン	短く押す	長押しする
P1	ステータス表示 / 戻る	着火 / 消火 / ブロック解除(エラー時)
P2	温度設定を上げる / 数値を上げる	ペレット投下量の調整
P3	火力設定 / 数値の保存/ 決定	
P4	温度設定を下げる / 数値を下げる	排気ファンスピードの調整

6.3 マーク点灯

マーク	説明		
L1		送風ファン作動	
L2		ペレット供給モーター(オーガーモーター)作動	
L3		点火ヒーター作動	
L4		設定温度に達しています	
L5		G	日中タイマー設定
L6		S	週間タイマー設定
L7		W	週末タイマー設定

7.コントロールパネルの操作

7.1 点火

ストーブを点火するには、P1()を3秒間、電子音が鳴るまで長押しします。

7.2 火力の調整

ストーブの火力を設定する機能です。P3()を押すとディスプレイ D2 に表示され、1～3または A(オートモード)に設定できます。P3()を押し、数値が点滅中にもう一度 P3()を押すと数値を変更できます。

※オートモードは室温と設定温度の温度差に応じて出力を自動で調整します。

7.3 室温設定

ストーブの燃焼は、本体後ろにある室内温度センサーに応じて調整されます。

P2()または P4()を押すとディスプレイ D4 が点滅し、点滅中に P2() / P4()を押して設定温度を上げる/下げることができます。

ボタンを押さずに3秒間放置すると、設定が保存され元の画面に戻ります。

7.4 消火

ストーブを消火するには、P1()を3秒間、電子音が鳴るまで長押しします。

自動消火モードに入り、排気温度が設定値を下回るまでストーブは作動を続けます。

自動消火モードの間は、オーガーモーターが停止し、排気ファンと温風ファンは作動します。
消火が完了するとコントロールパネルは点火前と同じ表示に戻ります。

※主電源を切ったりコンセントを抜いたりしてストーブの電源を切らないでください。
排気ガスを完全に排出し、ストーブで発生した熱を完全に利用するには、電圧を切ることなく
消火サイクルを終了させる必要があります。

7.5 表示メッセージ

表示	説明
時刻表示	ストーブの電源がオフになっています 通常運転モードです
CHEC	チェックモード ストーブの状態を確認しています
On	点火段階です(1～5 段階)
Mod	設定温度に達したため、エコ運転に移行しています(低火力モード)
runM	排気ガス温度が設定値を超えると、この状態に移行します
Stby	設定温度に達し、スタンバイ状態です(スタンバイモードが有効の場合)
SAF	排気ガス温度が安全設定値を超え、セーフティモードに移行しています
rEc	一時的な停電時の再点火モードです
ALt	安全装置が作動するか、エラーが発生し消火モードに入っています
OFF	消火モード(消火中)です
SoFt	ソフトモードが有効です
OFF dEL	点火状態中に、手動以外でシステムがオフになった場合に表示されます
PCLr	定期清掃中

7.6 キャリブレーション

このメニューは、ペレットの種類や排気管の状況に応じて燃焼を最適化するために使用します。

7.6.1 ペレット供給量の調整

P2(⏏)を長押しすると下部ディスプレイに「PELL」と表示され、上部ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

P2(⏏)を再度長押しすると設定値が点滅し数値を変更できます。

数値は-7～+7 の範囲で設定できます。

ボタンを押さずに3秒間放置すると、設定が保存され元の画面に戻ります。

7.6.2 排気ファンスピード(燃焼空気量)の調整

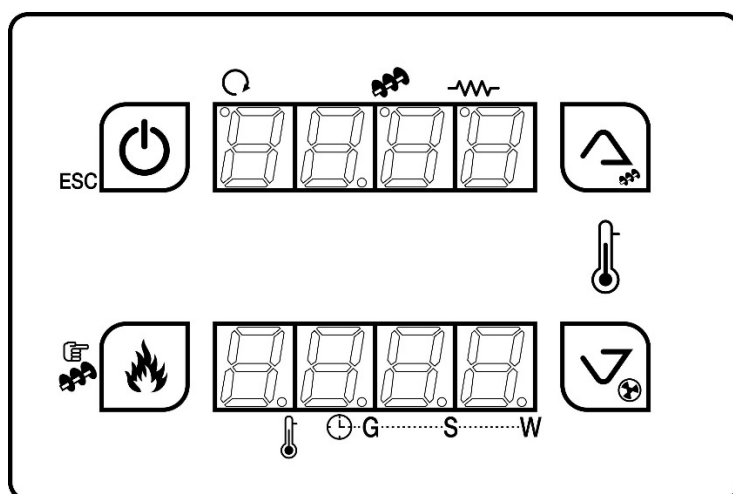
P4(☑)を長押しすると下部ディスプレイに「Vent」と表示され、上部ディスプレイに現在の設定値が表示されます。

P2(△)を長押しすると設定値が点滅し数値を変更できます。

数値は-7～+7 の範囲で設定できます。

ボタンを押さずに3秒間放置すると、設定が保存され元の画面に戻ります。

8. メニュー設定



P3(🔥)とP4(☑)を同時に長押しすると最初にディスプレイに「Air」が表示されます。

P2(△)/P4(☑)で設定したいメニューを選択し、P3(🔥)で決定します。

メニュー一覧

表示	説明
Air	温風ファンの調整
Cron	タイマー
Rice	レシピ(使用しません)
Orol	時計
tELE	リモコン
Stby	スタンバイモード
AuPo	オートモード
LoAd	ペレットの手動装填
SoFt	ソフトモード
Tpar	シークレットメニュー

8.1 Air:温風ファンの調整

室内に温風を送る温風ファンの強さを設定できます。

オートを選択すると火力・温度設定に応じて自動的に増減します。

8.2 Cron:タイマー

タイマープログラムによる点火・消火を設定できます。

8.2.1 ModE:プログラムの有効/無効

タイマー機能では3種類のプログラムを設定でき、どのプログラムを有効にするかを「ModE」のメニューで設定できます。

OFF:プログラム無効

Gior:デイリープログラム…曜日ごとに点火・消火の時間を設定できます。

SETT:ウィークリープログラム…1週間まとめて点火・消火の時間を設定できます。

FiSE:ウィークエンドプログラム…月～金、土～日に分けて点火・消火の時間を設定できます。

8.2.2 ProG:タイマープログラムの設定

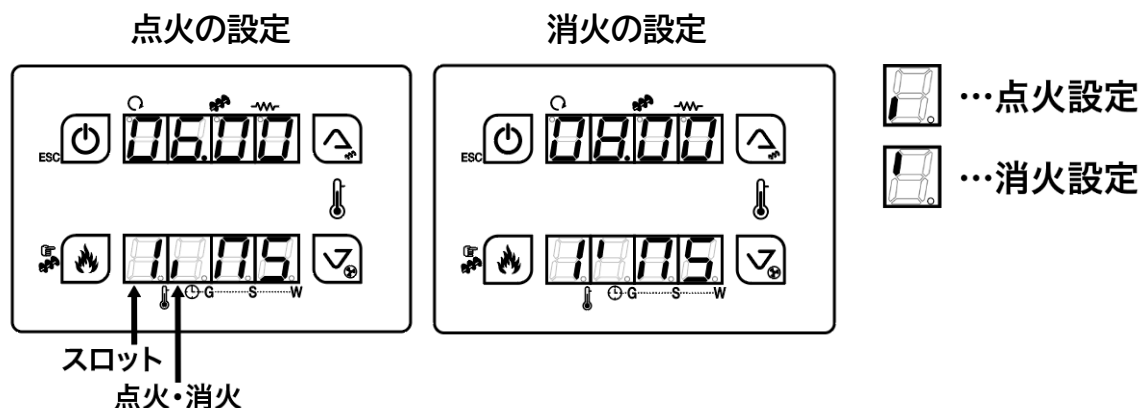
「ProG」を選択後「Gior/SETT/FiSE」の設定したいプログラムを選択し決定します。

P1(Ⓢ)を長押ししてスロットを有効・無効にできます。

スロットは各プログラムに1～3まであり、それぞれに点火時間・消火時間を設定できます。

例)毎日6時に点火、8時に消火する場合

- ・「SETT」を選択し、スロットを有効にします。
- ・スロット1の点火を選択し、時刻を「06:00」に設定します。
- ・スロット1の消火を選択し、時刻を「08:00」に設定します。



8.3 rice:レシピ

使用しません。

8.4 oroL:時計の設定

時刻と曜日が設定できます。ディスプレイ上部に時間、下部に曜日が表示されます。

P2(⏸)/P4(⏸)で点滅中の数値を変更し、P3(⏸)で確定します。

曜日表示は次の通りです。

曜日	月	火	水	木	金	土	日
表示	Mo	tu	WE	tH	Fr	SA	Su

8.5 tELE:リモコン設定

この機種には付属していません。

8.6 Stby:スタンバイモード

室温設定に応じてストーブの自動消火/自動再点火を行うスタンバイモードが設定できます。

On:有効 / **Off:**無効

設置場所の温度変化が大きい環境では、ストーブが頻繁に消火・再点火を繰り返すことがあります。その場合は、スタンバイモードを無効にすることをお勧めします。

8.7 AuPo:オートモード

燃焼火力を自動モードのみに設定できます。

On:有効 / **Off:**無効

有効にした場合火力設定が A(オートモード)で固定されます。

8.8 LoAd:ペレットの手動装填

ペレットを供給するオーガーモーターを回し、ペレットを送り出すことができます。

この操作はストーブがオフの状態でのみ使用できます。

P3(⏸)で決定し開始、P1(⏸)で中断できます。

動作は 300 秒で自動的に中断されます。

※初めてストーブを点火する際や、タンク内が空になるまで運転した後に点火する際など、オーガー内のペレットが空になっている場合はこの操作を実行し、オーガー内にペレットを充填してください。

8.9 Soft:ソフトモード

燃焼火力を落とし温風ファンを停止して静かに燃焼するソフトモードが設定できます。

On:有効 / **Off:**無効

8.10 Tpar:シークレットメニュー

このメニューは許可された技術者のみが使用できます。

アクセスはパスワードで保護されています。

9.アラーム表示

点火段階や運転動作中に異常が発生した場合、ストーブは自動的に消火モードに入り、上部ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

エラー表示(ブロック)は消火モードの終了後、P1(Ⓜ)を長押しすることで解除できます。

解決策を試しても問題が解決しない場合や、太字で書かれた解決策が必要な場合は、販売代理店などの技術者にお問い合わせください。

エラー表示	エラー説明	原因	解決策
ER01	燃料タンクの安全装置が作動した	送風ファンの故障 ストーブが汚れている ストーブの位置が正しくない	送風ファンを確認する ストーブを掃除する ストーブの離隔距離を確認する
ER02	負圧センサーが作動した	排気ガス出口が塞がれている 排気ファンの故障 負圧センサーの故障 ストーブが汚れている	必要に応じて排気管を掃除する 排気管を確認する 負圧センサーを確認する ストーブを掃除する
ER03	排気ガス温度が低い	ペレットの供給が不足している	燃料タンクにペレットを入れる
ER05	排気ガス温度が設定値を超えた	送風ファンの故障 ストーブが汚れている ストーブの位置が正しくない	送風ファンを確認する ストーブを掃除する ストーブの離隔距離を確認する
ER07	排気ファンの速度センサーから信号が無い	センサーの接続が切れている センサーの故障 基盤の故障	接続を確認する 排気ファンを交換する 基盤を交換する
ER08	排気ファンの回転数が設定値に到達できない	排気ガス出口が塞がれている 排気ファンの故障	排気管を掃除する 排気ファンを確認する
ER11	日付と時刻が正しくない	長時間電源が入っていない	日付と時刻を設定する

ER12	点火失敗の為、停止した	ペレット供給が不足している 燃焼ポットの位置が正しくない 燃焼ポットが汚れている ペレットの品質が低い 点火ヒーターの動作不良	燃焼タンクにペレットを入れる 燃焼ポットの位置を確認する 燃焼ポットを掃除する ペレットを交換する 点火ヒーターを交換する
ER15	電源供給がない	一時的な停電	アラームを解除する(P1 (⏻)長押し)
ER16	RS485 通信エラー	電子基盤とコントロールパネルが接続されていない	接続を確認する ケーブルを確認する 基盤とパネルを確認する
ER18	ペレットセンサーが作動した(センサーがある場合)	ペレットの供給が不足している	燃料タンクにペレットを入れる
ER47	オーガーモーターからの信号がない	センサーの接続が切れている センサーの故障 基盤の故障	接続を確認する オーガーモーターを確認する 基盤を交換する
ER48	オーガーモーターが設定値に到達できない	オーガーモーターの故障 センサーの故障 基盤の故障	オーガーモーターを交換する 基盤を交換する
Sond	センサーに問題がある	排気ガスセンサーの故障 排気ガスセンサーが短絡している	接続を確認する センサーを交換する
Port	ドアが開いている	ドアが開いている	ドアを閉める

・その他ご不明な点やトラブルが発生した場合は、お近くの販売代理店等にお問い合わせください。

・本製品の改造、指定外の燃料・部品の使用等を行わないでください。安全上の問題が発生する恐れがあります。

・この取扱説明書の内容は、製品の改良等により予告なく変更される場合があります。

・この取扱説明書の一部または全部を無断で複製・転載することを禁じます。